平成２７年度　第2回点字ブロック会議報告

期日：平成２７年１２月２２日（火）　１５時３０分～１７時

会場：日本盲人福祉センター２階研修室

出席：誘導ブロック業者…１１社（順不同）

　　　　　クリヤマ株式会社

　　　　　錦城護謨株式会社

　　　　　株式会社タナベ

　　　　　草竹コンクリート工業株式会社

　　　　　㈱佐渡島　クリンタイル

　　　　　太平洋プレコン工業株式会社

　　　　　株式会社ソーセキ

　　　　　株式会社鍋島興産

　　　　　大崎工業株式会社

　　　　　トーワ株式会社

　　　　　有限会社テイクス

　　　学識経験者…秋山哲男　中央大学研究開発機構教授

　　　当事者委員…６名（順不同）

　　　　　阿部（群馬県）

　　　　　今村（神奈川県）

　　　　　大竹（東京都）

　　　　　蓮實（栃木県）

　　　　　黒川（千葉県）

　　　　　笹川（東京都）

　　　日本盲人会連合…２名

　　　　　鈴木事業部長

　　　　　藤井組織部長

検討内容等

１　車いす等アンケート調査報告

　　別紙報告書のとおり実施された。

　　車いす使用者等８２名に行ったアンケートの報告。

　　内容として「高さ２．５ｍｍであれば問題は無い」との意見が多かった

　　ことを報告。

今回の新たな屋内用誘導ブロックを「屋内用」として進めてほしいとのエールも記載されていたことを報告。

２　誘導用ブロックの種類と誘導マットとのすみわけについて

現在使用されているＪＩＳ規格以外のブロックにおいて、屋内で使用されているブロックが数種類あるので、これらは整理した方が良いとの意見が多く出された。

高さの低いブロックについての実証実験の事例が少なく、きちんとしたデータとして確保されていない状況。

商業施設として台車を多く使用しているコンビニやスーパー、デパートなどにおいては、誘導マットが望ましいとの意見が出された。

ただし、既に敷設されているところについては、順次改めることが望ましいとの意見となった。

今までの見解では、特定特例建築物の中でも、病院などを対象にするとの意見のとりまとめであったが、さまざまなアンケートの結果から判断すると、屋内の部分に広く用いることが望ましいとの意見が多かった。

商業施設以外の屋内については高さ２．５ｍｍの誘導ブロックで普及させることとなった。

しかし、危険な個所（階段部、傾斜路部）にはＪＩＳ規格で対応することは確認されている。

ホテルなどの幅員が狭い廊下においては、現場に合わせる形で２本線の誘導ブロックも適宜敷設することなどの意見も出された。

これらの屋内用ブロックの敷設に当たっては、ブロック周辺の路面を滑らかにし、ブロックとの対比がわかるよう整備することも確認されている。

　　また、色彩についても原則として黄色を用いることが確認された。

今回で最終的なものとし、高さを半分の２．５ｍｍとした屋内用誘導ブロックとして推進して行く事を決定。

３　新たな屋内用誘導タイルの存在について

最近グッドデザイン賞を受賞した誘導ブロックについては、その根拠に視覚障害者の意見が反映されていない等の理由で抗議を行うことになった。

更に、現在この会議で検討している時期に出されたことは遺憾であるとの意見が多く出された。

また、この他にも新たな「点字ブロック」として出てくる可能性も含めて早急な対応が必要との意見が多かった。

４　展開方法について

　　今後高さを２．５ｍｍとした屋内用誘導ブロックを推進していく事が確認。

　　できる限り早い段階で「商品化」し、広く知らせることが必要との意見で

一致した。

５　その他

屋内用ブロックをＪＩＳ規格まで持っていく事は現段階では難しいところであるが、関係機関に働きかけることは必要であるとの意見が出された。

また、国土交通省だけでなく、建築士も含めた対応を行うよう意見が出された。

この屋内用ブロックについては、もっと実証実験や敷設してみてその後の反応を調べることも必要であるとの意見も出された。

展開を図る段階で、岡山県立大学の田内先生にも協力を求めた方が良いとの意見があり、今後接触して行うようにすることとなった。